

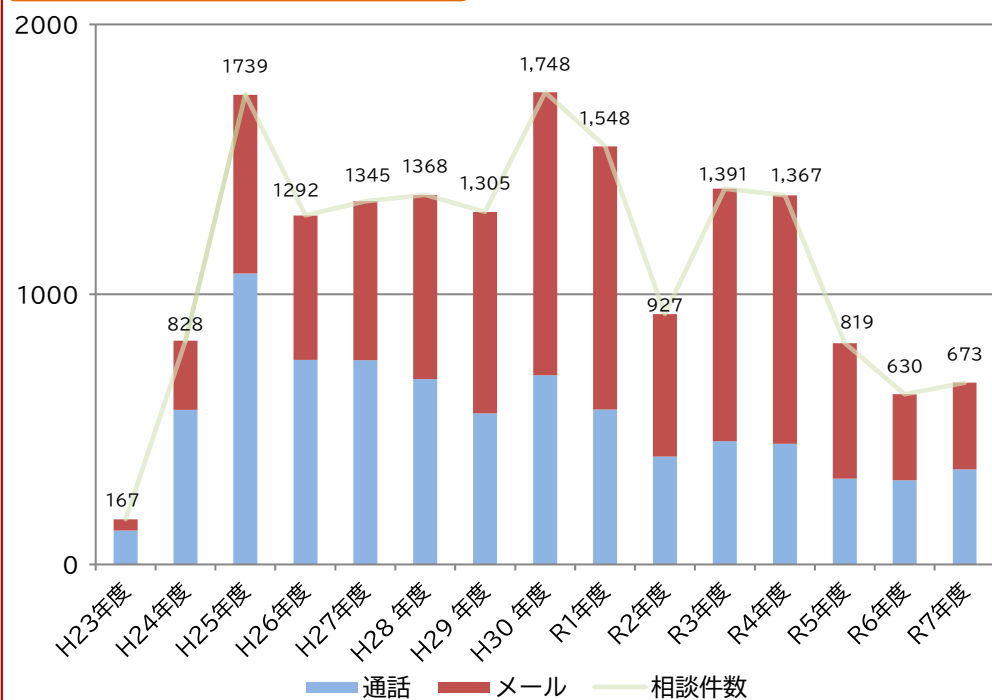
「にんしんSOS」相談実績（平成23年度～令和7年度）

※平成23年度は6か月分の集計

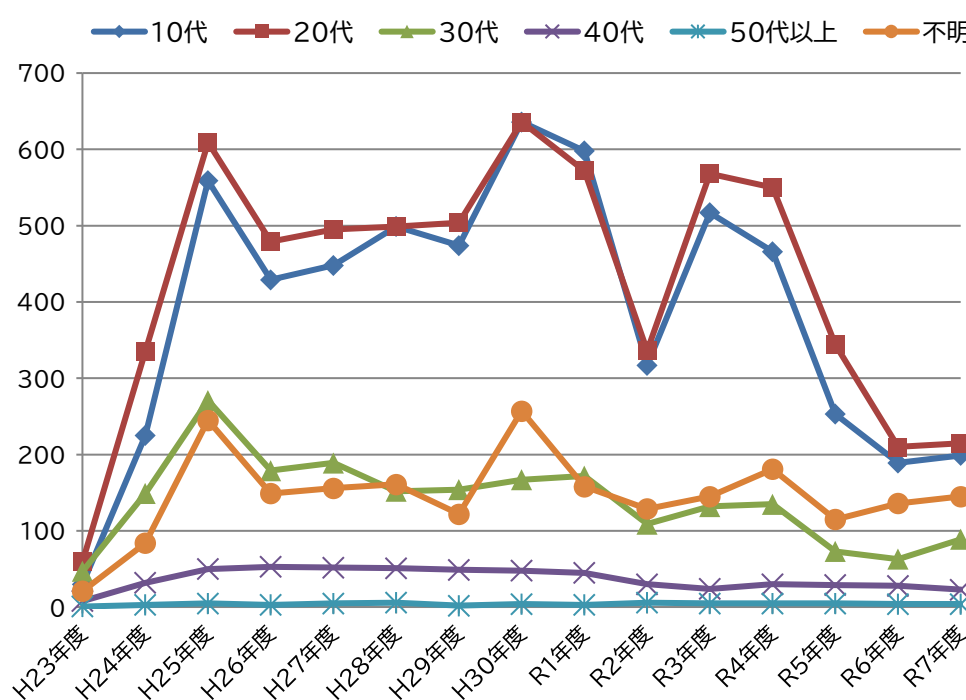
- ◆相談件数は、H25年をピークに約1,300件で推移していた。R2年度は新型コロナウイルス感染症の社会的影響が減少がみられ、R3年度に例年並みとなるが、以降減少傾向にある。
- ◆当初は電話相談が多数を占め、H29年度からはメールでの相談が電話を上回っていたが、R6年度は概ね同数、R7年度は通話がメールを上回っている。
- ◆近年、大阪府内からの相談割合が増加しており、約7割を占めている。全国的に相談窓口が開設されている影響も考えられる。
- ◆相談者の年齢は10～20代の若年者が多く、R7年度は10代及び20代の相談がそれぞれ全体の約3割、また、学生が全体の約3割を占めた。
- ◆H31年4月より日曜日も相談窓口を開設し、さらに、R6年6月より通話料のかからないLINEコールを活用した通話相談を開始するなど、相談体制の拡充を図っている。

初回相談件数

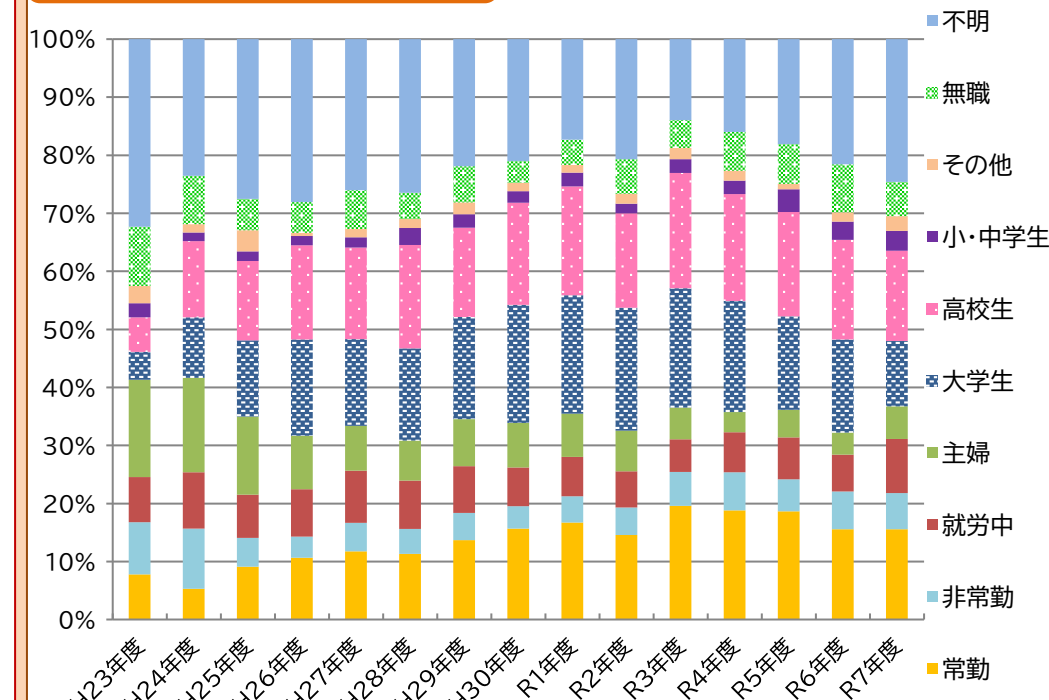
※R6年度以降、通話にLINEコールを含む



相談者の年齢



相談者の職業



令和7年度の主な相談内容

- 妊娠不安…………… 35.9%
- 産もうかどうか…………… 17.9%
- 中絶…………… 10.2%
- どうしたらよいかわからない…………… 7.4%
- 費用…………… 6.1%
- その他(心身の状況、緊急避妊等)…………… 22.5%

特徴

- 月経が遅れている、妊娠したかもしれない、避妊に失敗した等、「妊娠不安」が約半数ある。このような思いがけない妊娠等につまづく悩みの背景には、家庭不和や経済的な問題、相談者自身の精神的なつらさがうかがえることが多い。また、中には、妊娠後期を迎えている等、身近に相談者がおらず、社会的に孤立した状態であったと考えられる方からの相談もある。
- 10代の相談者からは、現在の身体の変化が妊娠兆候ではないかという不安や、妊娠の可能性のある行為かどうかを確認するもの等が目立ち、基本的な知識の普及が必要。また、「誰にも相談できない」「どうしたらいいか」「死にたい」「助けてください」等、相談者自身の考えがはっきりしないままの漠然とした相談内容も多い。

令和7年度の主な対応

- 情報提供…………… 72.4%
- 助言等…………… 15.5%
- 受診勧奨…………… 5.8%
- 連絡…………… 1.0%
- その他…………… 5.3%

特徴

- 相談者の不安や状況に丁寧に寄り添い、妊娠や出産についての正しい知識や地域資源の情報等を伝えている。
- 継続した支援が必要と考えられる場合は、地域の保健機関等と連携してサービスを提供する等、必要な支援につないでいる。

今後の対応

- 若年層に対し、教育との連携により学校関係者や生徒らへの周知を継続。また、公民連携企業や団体の協力を得て、店舗等への周知用チラシやカードを設置。緊急避妊薬や妊娠検査薬を販売する薬局において購入者へ案内。SNSを活用した広報等周知を拡充。相談に結びついていない年代や生活層の方に、相談窓口の連絡先・情報が届き、相談につながるよう、さらなる周知方法の検討。
- 研修会等の場を活用し、地域保健機関や学校関係者、NPO等、地域で若年者を支援する機関への周知を継続。
- 妊娠・出産・子育て期にわたる地域における切れ目ない支援体制づくり、地域保健機関との連携強化。